

平成 28 年度 政務調査研究報告書

会派名	公明党	支出伝票No.	
事業名	先進地視察: 東京都品川区 リニア時代を見据えた観光政策について		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

4年後の東京オリンピック、11年後のリニア新幹線の開業を見据えた品川区の観光政策を調査し、リニア新幹線開業を見据えて品川区との観光交流の可能性を探りたい。また、地域資源を活かした KAIDO books&coffee の取り組みとインバウンドの取り組みとしてゲストハウス品川宿を併せて調査した

(2)実施概要

調査・研修の場合 の実施日時と訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成28年12月26日 13時30分～17時30分	品川区文化スポーツ振興部 文化観光課 課長 鈴木 誠 氏 ゲストハウス 品川宿 株式会社宿場JAPAN 広報・事業戦略・法務担当 岡部 宇洋 氏 KAIDO books&coffee 株式会社しながわ街づくり計画 代表取締役 佐藤 亮太 氏

報告内容	<p>1 視察先(市町村等)の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 380,293 人 210,717 世帯 (平成 28 年4月1日) 面積 22. 84 km² ・品川区は23区南部に区分される。昼は夜の 1.46 倍の人口になる。江戸時代には、5街道中もともと交通量が多い東海道の第1宿場として発展 <p>2視察内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (1)品川区の観光政策 <p>実施したところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 平成27年に10年間の「品川区都市型観光アクションプラン」を見直し、「品川区都市型観光プラン」を策定 ○改定の背景:観光を取り巻く時代背景が変化した ○アクションプランに基づく取り組みの成果と課題 成果:街歩き観光の推進、案内拠点の整備、多様な媒体を活用した情報発信 課題:観光情報の一元化とプロモーションの強化、受け入れ態勢の充実等 ○しながわ観光の特徴と課題 ・品川区も、飯田と同じで、目玉となる観光地を持たない。地域資源が点在している。点と点を結ぶパッチワークの魅力を高めること ○しながわ観光のコンセプト ・繰り返し訪れて楽しいまちしながわ・・日常の生活環境に着目した官民連携による都市型観光の推進 ○しながわ観光の戦略 東京五輪・パラリンピック開催も視野に入れ、区民はもとより、区外からの来訪者や外国人観光客など幅広いターゲットに対して5つの戦略 ・観光コンテンツの充実・・しながわならではの過ごし方の提案 ・情報発信の強化
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・連携による魅力の向上 ・魅力的な環境づくり ・しながわ観光を支える体制の充実 <p>イ 品川区観光振興協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「品川区都市型観光プラン」の推進体制として組織化 ・品川区、観光協会、商店街、公共交通機関、観光事業関係者、メディア関係者など組織される ・40団体とオブザーバー3団体 <p>(2)ゲストハウス品川宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低予算で国外を個人旅行する旅行者向けの簡易旅館。和洋個室、ツイン、トリプルなどいろいろなタイプの部屋を用意。25人定員で常時9割が満室となっている。日本人客:外国人客が5:5くらい。外国人客は、台湾、香港、米国から来ている。シングル1泊3800円。 ・「ガイアの夜明け」で紹介された。 <p>(3)KAIDO books&coffee</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元は私的文庫だった。地域資源を活かした取り組み。旧東海道の古い街並みを残した商店街の一角にある。 ・旅好きが集まるというコンセプトを支える選書は、田中義巳氏の蔵書の中から1万5千冊が棚に並ぶ。飯伊地域に関する本も目につきやすいところに置かれていた ・商店街の空き店舗を使ってまちづくりをするというのがこの店の大きなテーマ ・店の運営は、商店街連合会からの再委託。再委託に当たっては、皆から一目置かれている商工会議所の堀江氏の力添えがあったとのこと ・賃借料は、坪1万円。30坪で30万円
感想(まとめ) ・市に活かせること等	<ul style="list-style-type: none"> ・しながわ観光の戦略は、2020年の東京五輪・パラリンピック開催が当面の目標となっている。リニア開業を見据えてはそれからのことのようなのだ。 ・「飯田市との観光交流についてどう考えるか」と聞くと、「実務となると、区と市の規模のバランスを考えてしまふ。ウインウインになるものを探すことだと思う。りんごなど食べ物で交流するのはどうか。民間同士ならバランスは関係ない。人脈を探すことだ」 ・ゲストハウス品川宿の岡部さんは、若い方であった。思いと行動力には敬服した。飯田にもこのような若者が出現してくれることを期待したい。 ・KAIDO books&coffee は、コーヒーとお酒も出すようだが、あれだけの事業で、よく賃借料を払ってやっていると思った。佐藤氏はリクルートから転職した方で、品川区外の人。ここまで来れたのは、堀江氏の力添えもあると思うが、地域に「何でもまずは受け入れる」という宿場気質があると思った。佐藤氏に、まちづくりを進めるのに何が必要かと問うと「コーディネーター、つなぎ役がいる」と。なるほどと思った

(3) この事業実施後の対応及び方向性

・会派や、2015年5月から産業建設委員会において、10年後を見据えて、飯田下伊那地域にある資源を見つけ、掘り起こし、磨いて、この地域らしい観光資源に育てたいと考え議論してきた。その中で、都市との交流は今後重要になるとの意見で一致した。また、外国人観光客の誘致についても重要と考え議論したが、今の飯伊地域の実態は、なかなか進まないのが現状である。これらを踏まえて、現在の品川区の取り組みの状況を調査した

平成28年度 政務調査研究報告書

会派名	公明党	支出伝票No.	
事業名	先進地視察：藤枝市「健康マイレージ」をはじめとした“健康・予防日本一”ふじえだプロジェクトの取り組みについて		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費	②研修費	③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費

(1) この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図のか

市民・事業者・行政が一体となって取組む「守る健康」「創る健康」を調査し飯田市の健康づくりの参考にする。

(2) 実施概要

調査・研修の合の 実施日時と訪問 先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成 28 年 12 月 27 日 13 時 00 分～14 時 30 分	藤枝市健康福祉部健やか推進局健康企画課 課長 下田 明宏氏 係長 金原 雅之氏 地域医療担当係長 山本 洋子氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先 (市町村等) の概要 平成 28 年 11 月末日現在 面積 194、03 km 人口 146,596 人 世帯数 57,873 世帯 平均年齢 46、26 歳 高齢化率 28、0% 東海道の要衝として発展してきたまち 富士山静岡空港まで 25 分</p> <p>2 視察内容 ◎健康・予防日本一” ふじえだプロジェクト H25.3.6 第 1 回健康寿命をのばそう!アワード厚生労働省健康局長優良賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤枝市の重点戦略 「暮らしの基本」4K 政策 健康・教育・環境・危機管理→市民が、幸せな健康生活を少しでも長く続けられるまち 1 丁目 1 番地は、市民の「健康」づくり “健康・予防日本一” ふじえだプロジェクト 「選ばれるまち 藤枝」⇒若い世代を中心に定住人口増加中 (5 年連続で転入人口が転出を超過) <p>◎ “健康・予防日本一” ふじえだ 市民・事業者・行政が一体となって推進</p> <ul style="list-style-type: none"> *守る健康 命を守る ・発症予防・重症化予防・地域医療 *創る健康 命を輝かせる ・豊かな人生設計・健康気運向上・ポピュレーションアプローチ ↓↓ 元気なまち “ふじえだ” づくり <p>*守る健康 特定健康診査受診率が高い ↓↓ (藤枝市 47、9%静岡県 36、4%全国 35、4%) 内臓脂肪症候群 (メタボ率) が低い藤枝市 11、2%静岡県 13、6%全国 14、3%</p>
-------------	--

がん検診受診率が高い



がん標準化死亡率が低い 男性全国3位 女性全国2位
後期高齢者医療費の被保険者一人当たり医療費が低い

- ・住民代表1,000人の保健委員が活躍
自治会組織を基盤に30年間で延べ2万人の経験者

***創る健康**

“楽しい” “お得” といった切り口から「健康」へ
無関心層の動機づけ

(特定健診未受診、生活習慣病で受診もしていない無関心層が約30%いる)

◎ “健康・予防日本一” ふじえだプロジェクト

健康をキーワードに、地域・産業を振興、定住を促進
(ポリシーミックス&シティプロモーション)

- ・プロジェクト1・・・歩いて健康「日本全国バーチャルの旅《自助プログラム》

バーチャルの旅として、東海道五十三次の路線が描かれたチラシを用い、日本橋 から三条大橋まで歩くという内容。1万歩歩いたら一つのマルを塗りつぶして東海道を走破するプロジェクト。(H24 1月スタート)

奥の細道コース、四国お遍路コース、北海道周遊コース、九州周遊コース等 40 コースを設定。約 26 コースで1万キロという距離数にしてある。1万 km 達成で表彰

H28、9月現在、1万km完歩者14名

高齢世代：紙版でトライ 働き世代：健康マイレージの web 版でトライ

- ・プロジェクト2・・・ふじえだ健康スポット20選《共助プログラム》

「観光」→「健康」を切り口 (H24 9月スタート)

地域の宝を発掘してマップで紹介、健康・予防の意識づけと回遊性のある賑わいづくりを促進 JR東海のさわやかウォーキング(年間1万人を誘客)や地元企業の産業祭などと共同で事業を行う。

「観光」から「健康」、「見せる」「魅せる」仕掛け。

- ・プロジェクト3・・・ふじえだ健康マイレージ《公助プログラム》

県のパイロット事業として、高齢者の社会参加を促すとともに、生活習慣の意識付けと継続・定着化を支援していく。(H24 10月スタート)

【ふじえだ健康マイレージの取り組みについて】

◎高齢者の社会参加を促すことで、健康寿命を延ばすことにもつながる。

◎日々の健康行動を自分で考えた目標に向かって2週間のチャレンジをする。

・日々の健康行動とは、運動・食事・休養・歯・体重計測などの日常の生活行為。

・健康的な生活行動にポイントを付与し、「健康」と「お得」を取得する。

健(検)診の受診、禁煙、社会参加、イベント、地域行事への参加などでボーナスポイントがもらえる。

・100点で1年間有効の「ふじのくに健康いきいきカード」がもらえ、協力店でいろいろなサービス(特典)が受けられる。現在の協力店は 800 店舗以上。

・参加は、紙版またはスマホなどの Web 版の選択が可能。

	<ul style="list-style-type: none"> ・対象は、18 歳以上の在住、在勤、在学者。 ・静岡県との協働事業であり、特典を協力店からのサービスを得る方法にしたことで、経常経費がかからない循環型システムにしている。 ・若年層向けに、スマホでマイレージ管理をできるようにしている。 ・システムの中には協力店を全部網羅したデータや休日当番医のお知らせ、健康相談や検診日程も見られるようにしている。 ・歩数グラフ、体重グラフを設けて自主的に管理をする機能をグラフ付加し、自分の健康管理ができる。 ・バーチャル東海道も、歩数を入れると自動的に動き出し、誰でも手間なく東海道を歩くという仕組みになっている。 <p>＊健康マイレージの検証 H28 11、30 現在 <実績> 達成者数：1,487 人（紙版 930 人、web 版 557 人） リピート率：約 30%（参加者数 2,118 人） web 登録：1,188 人（未達成者 631 人）</p> <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や店舗の協力でインセンティブが持続（公費投入無） ・告知やアンケートの経費を削減（web 版で一斉メール） ・ユニークな取組が全国から注目（シティプロモーション） ・H27 11月から4Kに全てで「ふじえだマイレージ」スタート <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短いチャレンジ期間後の健康定義の定着 ・もっと簡単（手間不要）なツールの活用 ・自己申告を排除した客観的なデータの取得 ・科学的な成果の測定（手法の導入）
感想（まとめ）・市に活かせること等	<ul style="list-style-type: none"> ・元気で豊かな人生設計のために自助・共助・公助をキーワードに健康気運の向上を図っている ・重点施策の4Kのうち健康を第一として、各部局に企画課を置き、部局横断的なプロジェクトチームをつくり、少ない予算、職員で効果的に事業の仕掛けをつくり戦略的に様々な健康増進のための施策を展開、実践しているところが参考になった ・ふじえだ健康マイレージは、高齢者の社会参加を促すことで、健康寿命を延ばすことにもつながっている。あわせて、健（検）診の無関心層に目を向けた取り組みや、スマホなどのWeb版を選択して参加できることも、若い人たちや市外の人への情報の発信になっている。 更にユニークな取組が全国から注目されており、飯田市のシティプロモーションなど情報の発信と利活用についての一つの考え方として検討すべきである。また、健康事業として成果を上げながら観光や産業振興にもつながっている。 各協力店が独自のサービスを行っており、お得感からいけば参加者は見込めると考えられるので、ぜひ飯田市においても、健康マイレージの導入を検討すべきである。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・会派として予算要望しており、調査継続中